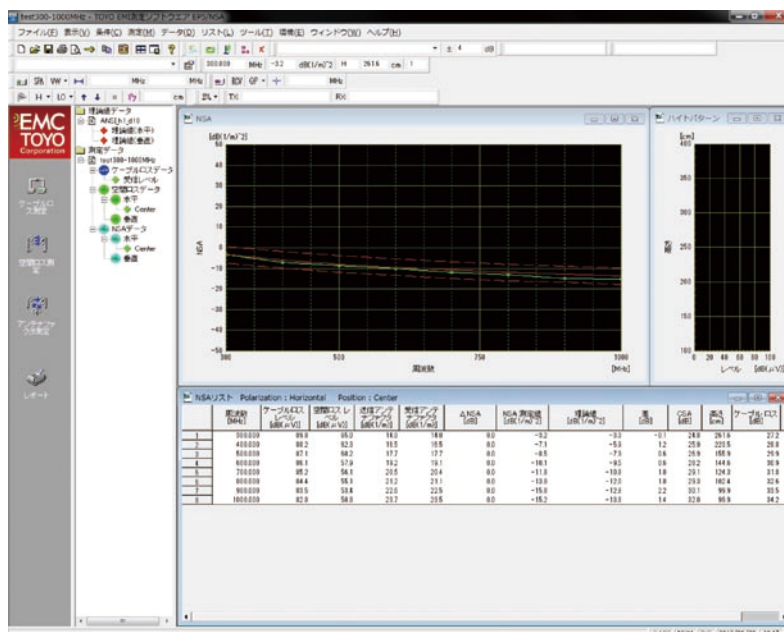


EP5/NSA 型 アッテネーション測定ソフトウェア



EP5/NSA 型は EMI 試験サイトの正規化アッテネーション (Normalized Site Attenuation) を自動的に測定し、EMI 試験サイトの評価を行います。

NSA は、ケーブルロス測定と空間ロス測定の 2 測定時の受信レベルより求めることができます。ケーブルロス測定と空間ロス測定の順番は任意ですが、2 つの測定結果がそろった時点で自動的に最終結果 (NSA、CSA 等) を計算し、表示します。

また空間ロス測定は受信アンテナの位置を 5 ヶ所まで測定できますが、その際ケーブルロス測定をやり直す必要はありません。ダイポールアンテナ、広帯域アンテナ、及び短縮ダイポールアンテナなどあらゆる種類のアンテナを使用することができます。広帯域アンテナを使用する場合には、スペクトラムアナライザに内蔵されるトラッキングジェネレータを利用し、掃引周波数法で測定することもできます。

■ 適合規格

ANSI、VCCI、CISPR 各サイトアッテネーション規格

■ NSA 測定

● ケーブルロス測定

送信側アンテナと受信側アンテナのケーブルを直結してケーブルロスを測定します。

● 空間ロス測定

送信側アンテナからの出力レベルを測定し、空間ロスを測定します。

■ 手動測定

空間ロス手動測定では、ケーブルロス測定を行ったある周波数ポイントを NSA リストから選択して測定を行います。

自動測定後に、空間ロス測定時にダイポールアンテナのエレメント長を間違えてしまった場合や、特定周波数のみサイトアッテネーションの再評価・調整を実施したい場合、ダイポールアンテナのエレメント長などを再調整した上で、指定周波数のレベルを測定し、リストとグラフにデータを表示させることができます。

■ アンテナファクタ測定

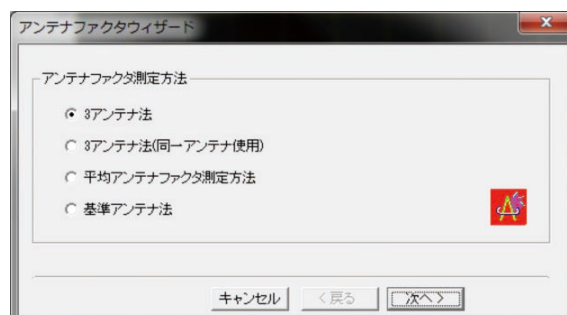
3 アンテナ法、基準アンテナ法などのアンテナファクタの計算・測定をウィザード形式でわかりやすく行うことができます。

● 3 アンテナ法

3 本のアンテナにより 3 種類の空間ロス測定データを取得し、各アンテナのアンテナファクタを計算により求めます。

● 基準アンテナ法

基準アンテナと、1 本のアンテナにより 2 種類の空間ロス測定データを取得し、1 本のアンテナのアンテナファクタを計算により求めます。



アンテナファクタ測定 ウィザード画面